

3つの重点項目

☑ 地域活力を高める

☑ 地域資源を活かす

☑ 地域課題を解決する

2015年に始まった乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業は、行政による公共空間の再整備がひと段落し、QURUWAエリアにおける公共空間の活用のみならず、地域の課題解決や魅力向上の担い手の台頭により、全国的に注目されるまちづくりの先進事例として、専門誌や書籍で紹介されたり視察が増えるようになりました。一連の活動から生まれた7町・広域連合会及び次世代の会により、地域自治の再生に向けて一定の活動基盤が生まれ、実り多き8年間のプロジェクトに一区切りつけることになりました。

一方で、2022年度は岡崎市地域交流センターの第4期指定管理期間の1年目として、これまでの取り組みの蓄積を元に、地域活動やコミュニティビジネスのノウハウ共有や、多くの協働の礎を築くためのアウトリーチに力を入れ、これまで以上に市民・行政・事業者が相互の強みを活かして連携する協働社会づくりに向けて新たなスタートを切った1年となりました。

2023年は、多様化・複雑化する社会課題・地域課題に立ち向かうために、まちづくり部門と拠点運営部門で培われたノウハウとネットワークを活かし、地縁組織や市民活動団体、事業者、行政との協働促進にこれまで以上に力をそそいでいくと同時に、それぞれの地域社会に必要なサービスや活動を自律的に生み出し相互に支える「まちと暮らしの生態系」を強化する活動に取り組んでいきます。

2023年度の新事業予定(抜粋)

●カーボンニュートラル人材育成事業(仮)

〈事業内容〉
カーボンニュートラルの実現に向けて、小学生～高校生までを対象として、カーボンニュートラルに向けた啓発・教育プログラムを行います。
〈実施予定日時〉
2023年6月～2024年3月
〈受益対象者の範囲及び予定人数〉
岡崎市全域

●法人広報強化事業

〈事業内容〉
Web上でりたの事業内容を分かりやすく情報発信し、理解と参画につながるようにするため、法人ホームページの改修を実施します。
〈実施予定日時〉
2023年6月～2024年3月
〈受益対象者の範囲及び予定人数〉
ホームページ閲覧者(年間のべ約6000人)

りた会員募集のお知らせ

りたは、市民が中心となり、専門家や行政とも協働してまちをつくる社会を目指すNPOです。本法人の趣旨にご賛同いただける団体・個人の方々の入会をお待ちしております。

＜正会員＞ 団体正会員 年額10,000円 個人正会員 年額 3,000円

△総会での議決権を持ち、NPO運営活動に直接的にご参加いただけます。

＜賛助会員＞ 団体賛助会員 一口年額10,000円 個人賛助会員 一口年額 3,000円

△りたの活動に賛同し、支援するための会員です。会員総会での議決権はありません。

・入会いただいた方には、郵送にて本誌(年6回)を送らせていただくほか、法人運営に関わる会合(総会等)のご案内をお送りします。

・年会費は、申し込み時期に関わらず、毎年3月31日(本法人の事業年度末)をもって更新となります。

まちのミカタ

Litaracy

2023.07vol.122

発行・編集



特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra/岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所/岡崎市各市民センター/シビックセンター/
FMおかざき/杉くんの駄菓子屋/cafeくらがり/松應寺

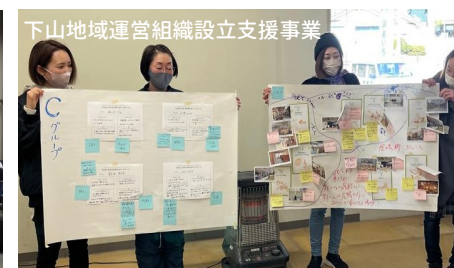
まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

122

2023年7月



特集

2022年度のりた

りたは、地域の課題を解決したり、地域の魅力を向上する担い手を育み、まちに関わる当事者を増やし、「まちを育てる人を育てる」ことを通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も弱まり、徐々に人が集い交流する事業やワークショップなどができるようになってきました。地域交流センター等でも、市民活動・地域活動に復調の兆しが見えるようになり、地域活動、市民活動の「場」の重要性を改めて感じる一年となりました。

りたは、2023年6月29日、第18回りた総会を実施し、設立から18年目を迎えることにことになりました。今号では、2022年度の活動を抜粋し、事業内容・成果報告や次年度以降の展望についてお伝えします。

これらの事業を通じて培われた「顔の見える関係」は、地域活動や市民活動に取り組もうとする際に、共感の輪を広げ、協働の礎を築く源です。今後ますます地域の課題解決や魅力向上のための活力を高めるため、多くの人の協働の「場」をつくってまいります。

りたの「3つの主要テーマ」に対する成果

●地域の活力を高める

市民活動および地域活動の拠点施設(地域交流センター)の管理運営を通じて、市民自治・地域自治の礎となる地域の担い手を掘り起こし、市民活動団体による公益活動の場づくり、中学生・高校生・大学生の社会参加の場づくり、市民活動や地域活動へのボランティアマッチング(まちびとバンク)を推進しました。

また、日常的な窓口業務や情報の受発信、事業実施により蓄積されたネットワークを活かし、市民協働型社会の実現に向けた活動を行いました。

【該当事業】地域交流センター指定管理、まちびとバンク、高校生まちづくりプロジェクト ほか

●地域の資源を活かす

河川、公園、道路などの公共空間、そしてそうした場所を積極的に活用する市民、団体、事業者を地域の資源としてとらえ、公共空間のより豊かな使われ方を見出し、その場所ならではの価値として意味付け、それらを具現化し、持続させるための活動と結び付け、地域の魅力向上に貢献しました。

【該当事業】全国川サミットシンポジウム(乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業の一部として)、東岡崎周辺地区シンポジウム運営業務、公園愛護運営会設立支援業務 ほか

●地域の課題を解決する

少子高齢化、空き家の増加、防災、子育て支援など、山積する地域課題に対して、地域包括支援センター、社会福祉協議会、学区福祉委員会など既存の担い手との連携や、社会貢献意欲のある個人や団体、ボランティアなどの担い手の発掘およびマッチングを通じて、地域の課題解決を支援しました。

【該当事業】地域包括ケアシステム支援事業、籠田公園・中央緑道周辺地区の地域経営支援業務(乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業の一部として)、下山地域運営組織設立支援事業、市民活動センター運営業務ほか

数字で見る「りた」2022

決算額(経常費用)

1億9000万

地域包括ケアシステム支援業務、乙川リバーフロント地区のまちづくりデザイン事業、公園緑地整備交付金事業費など、昨年度から事業を中心に実施しました。

従業員数

62人

(常勤職員12人・パート等50人)

このほかに、プロジェクトスタッフもいます。(2023年3月末現在)

交流センター 年間利用者数合計

約27.5万人

昨年度に比べて利用者数は増加し、年間の目標値を達成することができました。

ボランティア役務提供額(955円/h換算)

231万円

「りた」の事業に関わっていただいたボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化。2022年度も非常に多くのボランティアに支えられました。(延べ1,116名2190時間)

「まちびとバンク」ボランティア マッチング人数/募集依頼件数

2,880人/96件

地域交流センターと市民活動センターで1年間に受け付けた「まちびとバンク」のボランティア募集依頼件数とマッチング数です。

●高校生まちづくりプロジェクト(岡崎市ふくし相談課委託業務)

岡崎市在住の高校生有志13名による、地域のつながりの活性化を目指す「高校生まちづくりプロジェクト」が実施するイベントの振り返り及びプロジェクトを総括するワークショップの企画・運営を支援しました。

「若者の語り場2023」では、QRUWA内で活動する大学生、7町・広域連合及び次世代の会等も交えた、世代を超えた岡崎の魅力やまちづくりの提案を話し合う場を提供しました。

●東岡崎駅周辺地区まちづくりシンポジウム運営業務

(岡崎市拠点整備課委託業務)

行政、地域住民・事業者、関連企業等が一体となって、東岡崎周辺まちづくりを推進するための機運醸成を図り、まちづくり基本計画におけるエリアビジョン更新のヒントをえることを目的としたシンポジウムを開催しました。シンポジウムには、関係者26名を含む108名が参加し、「ローカルファーストに基づく地域経済循環」といった、これから大切にしたいキーワードを選定したことで、次年度からの東岡崎エリアの将来像の検討への足掛かりができました。

●「名古屋市瑞穂公園陸上競技場整備事業」パークマネジメント活動業務

(西部造園株式会社、株式会社竹中公務店委託事業)

名古屋市がすすめる瑞穂運動公園の再整備におけるPFI事業において、公園のアクティビティを促進する仮設的な施設(仮称: PLOT)の計画策定にあたり、施設の提案者である竹中工務店が行うヒヤリング調査の支援を行いました。

20の個人・団体にヒヤリング調査を実施したことで、仮称: PLOTの構想を高度化することができました。さらに、非営利、営利、プロデューサー、アドバイザーといったように活用推進者を類型化することができ、運営段階において多様な関わり方があることを可視化することができました。

●「三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務」に関するコンサルティング

(愛知県公立大学法人委託事業)

尾張旭市は、三郷駅前開発事業の推進に際し、愛知県立芸術大学とまちづくりに関する協定を締結しました。これを受け、「愛知県立芸術大学受託事業三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務」として、再開基本計画への市民意見の反映を念頭に、りたは愛知芸術大学チームの一員として、各種のデザインワークショップ、社会実験、フォーラムの開催しました。

デザインワークショップでは、駅周辺の空間と活用の関係性を整理した「17のデザインランゲージ」を作成。それを用いて、駅周辺の空間の使い方を整理し、駅前再開発のABC街区の特徴づけ、方向性についてまとめた提案は、再開発組合との調整・協議に活用されました。

●公園緑地整備交付金事業費の内公園マネジメント会議運営補助業務

(日本工営都市空間株式会社委託事業)

NPO、企業、大学、行政など約70名の会員が参加した「愛地球博記念公園マネジメント会議」において、会議ファシリテーション支援を行いました。

昨年度に引き続き、園内の魅力発信となるMAPの作成と提示をする「MAP班」、情報共有・発信の場をオンライン上に設置、運営する「SNS版」の活動支援を行い、策定された計画の具現化を図りました。

●まち育てコーディネーター養成事業

今年度新たに入社したスタッフに対し、岡崎市内のNPO/市民活動の潮流とりたの位置づけや業務の概要等について解説し、中間支援組織の一員として業務に従事できるように教育を実施しました。



まち育て推進チーム／市民活動支援チーム

2022年度の事業(抜粋)

●公園愛護運営会設立支援等業務(岡崎市公園緑地課委託業務)

岡崎市緑の基本計画に基づき、公園の管理と活用を推進する「公園愛護運営会」の設立の可能性を調査し、設立準備会が立ち上がった地区に対して愛護運営会の設立支援を行いました。

今年度は、新たな公園愛護運営会設立箇所の検討として地区公園である矢作公園を取り上げました。ほかにも、さくら公園の公園愛護運営会設立支援や公園を限定しない組織の仕組み検討なども行いました。



●地域包括ケアシステム支援業務(岡崎市ふくし相談課委託業務)

市内20の地域包括支援センター(以下、「包括」)が進める、地域団体、ボランティア、医療機関、教育機関を巻き込んだ「地域包括支援システム」の構築において、包括の活動の支援を行いました。

1. ロジックモデルの作成支援

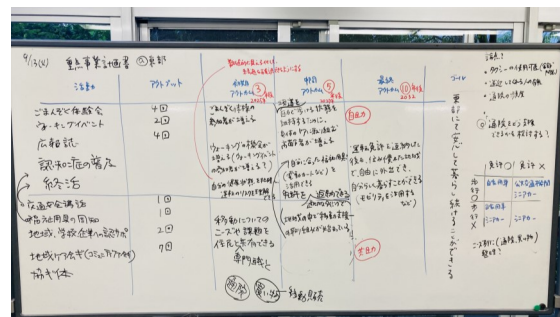
※ロジックモデル:事業が成果を上げるために必要な要素を体系的に図式化したもの。
全包括を対象に個別訪問し、ロジックモデルの策定支援を行いました。同時に、「2023年度の重点事業に関するロジックモデル」の作成相談をする機会を設定し、重点事業の戦略強化をしました。

2. 広報支援

真福包括、ひな包括、高年者包括に対して、チラシや発行物に関する作成支援を行いました。伴走支援をしたことで、職員全体の技術力の向上が見られました。

3. 岡崎市ふくし相談課との協働

(株)タカラトミー社が発売する「人生ゲーム」と岡崎市のコラボレーションで作成された「おかざきゴールデンシニア人生ゲーム」において、ゲーム内容の検討、校正作業を行いました。



●乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業

(岡崎市都市施設課委託業務)

籠田公園・中央緑道周辺地区における地域住民自らによるエリアマネジメントの推進支援として、次世代の会の運営体制と効果的かつ効率的な会議体の校正を確立しました。また、QRUWAアワードの企画・運営を通じて、2022年の次世代の会の活動全体を見える化。新たな活力を生み出す仕組みを構築しました。ほかにも、全国川サミット(りたらしいvol.119参照)のシンポジウム企画・運営といったかわまちづくり普及啓発事業を行うことにより、QRUWA戦略の推進を図りました。



●下山地域運営組織設立支援事業

(岡崎市下山学区地域づくり協議会受託業務)

下山学区の持続可能な地域づくりに向けて、岡崎市下山学区地域づくり協議会及び4つの部会(農用地保全、生活支援、地域資源活用、施設活用)の運営支援を行いました。特に、施設活用部会としては、旧JA下山支店の活用イメージの検討及び地域の将来ビジョンを作成するための「第2回下山のより良い未来を考えるワークショップ」を実施しました。



北部地域交流センター・なごみん



2022年度の事業(抜粋)



●情報発信力強化研修 ①チラシ作りのコツ ②Instagramを活用しよう

①参加者数:5団体5人 /②参加者数:6団体7人
効果的な広報活動を行うスキルの向上を目的とした情報発信に関する研修会を開催しました。「チラシ作りのコツ」では、発信したい内容の絞り方について学びました。また、「Instagramを活用しよう」では、〈教育サロン・学びんパーク〉さんを講師として迎え、実施しました。

●地域活動サミット～歴史探究者の集い～

参加者数:12団体47人/出演者:5団体5人
地域魅力向上や活力ある地域づくりに取り組む団体による事例発表会を開催。消えゆく gau 紡の歴史や岩津松平の歴史を後世に残すための活動をしている団体が活動を発表しました。

●なごみん横丁

参加者数:339人 ボランティア:69人(うち協働企業・団体数:3高校、5社、2団体)
市民活動団体や企業と協働して、子ども達がみずから考え行動するまちづくりイベントを開催。ボランティア募集には、光ヶ丘女子高等学校、岡崎商業高等学校、岩津高等学校が協力。企業・団体連携では、子ども達に「仕事」を提供するなど、多様な主体と協働することで、子どもと地域の接点を創出できました。

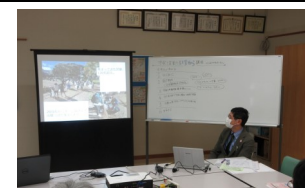
●聾学校×地域 協力創出事業 「なごみんつながるプロジェクト」

参加者数:4団体9人 ボランティア:2団体38人
岡崎聾学校と地域との連携を生み、地域活動の活性化を目的とした手話交流会を開催。岩津地区婦人自主防災クラブと協働し、防災をテーマに災害時に不安なことや意思疎通の方法について意見交換をする場を提供しました。

南部地域交流センター・よりなん



2022年度の事業(抜粋)



●組織マネジメント強化研修～市民活動いから講座～

①はじめてみよう市民活動 ②団体運営の勘どころ
①参加者数:4団体4人/②参加者数:6団体6人
市民活動や市民協働の基本的な考えを学び、団体運営能力向上を目的とした組織マネジメントに関する研修会を基礎編と応用編に分けて開催しました。また、展示会も実施したことで、研修に参加できなかった方への内容共有ができました。

●高齢者支援ネットワーク交流会

参加者数:15団体17人 ボランティア:5人 /冊子掲載 29団体
高齢者支援に取り組む団体が集まり、普段の活動共有やテーマトークを通して支援ネットワークの構築を目的とした交流会を開催。また、高齢者支援活動をしている団体情報をまとめた冊子を発行することで、広く情報発信を行いました。

●町内会サミット

参加者数:25人 ボランティア:4人
町内会活動についての意見交換会を開催。岡崎学区、羽根学区、小豆坂学区の総代会長が各町の取組を発表することで情報共有がなされました。また、意見交換会では、役員の選出方法や町費の集金方法など細かい意見交換もあり、他の参加者からも高い評価が得られた事業となりました。

●ふれあいひろば

参加者数:501人 ボランティア:311人
花壇整備(おひさまガーデン)、館内装飾(よりなん彩飾)、サロン開催(よりなんサロン)などの活動を通じて、市民が施設運営に参画する機会を創出し、市民参加での環境演出を行いました。

西部地域交流センター・やはぎかん



2022年度の事業(抜粋)



●資金調達強化研修 ①基礎編 ②応用編
①参加者数:6団体16名/②参加者数:6団体9人
資金調達能力向上を目的に、「お金」に関する研修会を開催しました。基礎編では助成金申請の心得やテクニックを学びました。応用編では、特定非営利活動法人ボラみより情報局の織田元樹さんをお迎えして、共感を得るためのプレゼンのコツを伺いました。加えて、社会福祉協議会さんに助成金情報を解説していただきました。



●防災交流会～助け合い・支え合いを考えよう～
参加者数:16団体90人 ボランティア:11人/出展:6団体6人
岡崎市防災課、社会福祉協議会、岡崎城西高校と協働し、災害時に自分達ができることを考える交流会を開催。グルーブトークでは、防災系団体に限らず、子育て支援や太極拳、絵手紙、ボーイ・ガールスカウト、大学生等、多様な主体がともに意見を交わし、有益な場を提供しました。



●矢作地域活動支援事業
支援対象:7団体 ボランティア:17名 /出展者17名
地域活動を行っている「子ども食堂」「花のとう実行委員会」「山車保存会」「矢田ファミリー農園」等を支援対象とした支援事業。年間を通した伴走支援で組織運営や活動に関する課題を洗い出し、それに対する改善方法をともに検討しました。



●やはぎかん15周年記念事業「市民活動フェス」
参加者数:322人 ボランティア:6人/出展者:23団体61人
市民活動団体等の出展ブースや展示による活動啓発に地域団体や地域商店によるマルシェを加えたイベントを開催。活動団体と市民が直接対話し、啓発できる機会を提供しました。

東部地域交流センター・むらさきかん



2022年度の事業(抜粋)



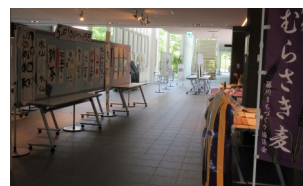
●SDGs研修 ①基礎・基本編 ②応用編
①参加者数:8団体13人 ボランティア:5人/②参加者数:7団体10人 ボランティア:10人
愛知県政策企画局や光ヶ丘女子高校と協働し、SDGsについて学び、【「知っている」から「やってみる」】に発展させることを目的とした研修会を基礎編と応用編に分けて開催しました。さらに、聴覚障害者を支援している団体と協働し、UDトーク(言葉を見える化する音声認識アプリ)を活用して、聞こえない人や聞こえる人にも講座内容を見える化しました。



●活躍人！交流会～豊かな自然を未来へ～
参加者:17団体18人
任意団体ONE RIVERと協働し、環境分野で活躍する団体の連携の輪を広げる交流会を開催しました。グルーブトークでは、活動内容や悩みを共有する場をつくることで、参加者のつながりをつくるきっかけを提供しました。

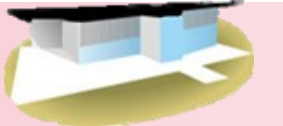


●SB/CB交流会～コミュニティビジネスのススメ～
参加者:29団体32人
CB(コミュニティビジネス)に関心ある方同士の交流や活性化を目的に、CBの基礎と実践を学ぶ場を提供しました。互いの交流と連携が図られ、CBへの関心や起業の機運が高まりました。



●藤川まちづくり協議会協働展示会「むらさき麦まつりのトリセツ展」
参加者:9団体105人(作品数) ボランティア:34人/来場者:147人
藤川まちづくり協議会と協働し、同協議会の活動PRおよび地域資源であるむらさき麦のPR、むらさき麦を活用した協働事例を紹介する展示会を開催。来場者と団体をつなぐ場の提供をしました。

地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里



2022年度の事業(抜粋)



●IT利活用研修 ①無料クラウドツールを市民活動にフル活用しよう編
②無料クラウドツールの実践・応用編
①参加者数:9団体17人/②参加者数:10団体15人
事務の負担を軽減し、活動そのものを充実させることを目的に、IT利活用に関する研修会を開催。基礎編では、Google無料ツールの活用方法を学び、応用編では、実際に使用することで理解を深め、導入への機運を高めました。



●ゆきファミリーパーク～親子で楽しく体験・交流～
参加者数:804人 出展数:16団体83名 ボランティア:62人/
子育て支援の団体と協働して、子育て世代向けのイベントを開催。企画・運営を通じて子育て支援に関わる団体の相互理解の向上とネットワーク強化につながったと同時に、当日の体験等を通して、参加者に対して子育て支援に関する有益な情報を発信しました。

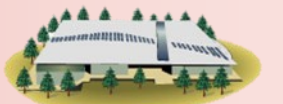


●六ツ美地域自慢交流会
参加者数:11団体50人 ボランティア4人
多様な主体の協力体制を創出・強化することで六ツ美地域全体の地域活動の活性化を目指した交流会を開催。地域で活躍する4団体による活動発表と参加者も含めた関係構築のための意見交換会を実施しました。また、交流会の内容をまとめた報告冊子を六ツ美地域に回覧し、市民への情報共有を行いました。



●ゆき彩展
年中行事や季節に合わせて、来館者参加型館内装飾を行いました。施設への愛着を深めると同時に施設運営への市民参画を促進させ、施設の取組への理解や協力意識の向上につなげました。

りぶら市民活動センター



2022年度の事業(抜粋)



●市民活動サポート研修「プロボノ研修」
参加者:9名 出演団体:5団体7名
個人の専門知識やスキルを活かして社会貢献する人「プロボノ」の活性化を目的として、講習にてプロボノの概要を学び、実践例を聞きながら出演者及び参加者の交流する機会を創出しました。



●市民活動支援
相談件数・情報ひろば入力支援:197件(延べ件数) 団体新規登録:5件
市民活動に関する相談対応や市民活動団体をつくりたい市民へのアドバイス、登録申請の受付、既存団体の登録、変更、廃止を行いました。



●まちびとバンク事業
マッチング:2,880件(地域交流センター分を含む)
ボランティアをしたい市民とボランティアを必要としている団体のマッチングを行い、ボランティア活動の促進に務めました。



●情報発信事業
〈まちのワ!〉発行回数:6回(東海愛知新聞)掲載団体:78団体
地域交流センターとの合同発行「まちのワ!」において、市民活動・ボランティア情報を中心に記事を作成・掲載しました。また、(株)東海愛知新聞社と連携し、市民活動団体の紹介記事を1か月に1回掲載し、情報発信を行いました。